



さとう・えいいち

昭和36年生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。昭和61年3月から平成16年11月まで北関東観光開発㈱代表取締役。平成9年、(社)宇都宮青年会議所理事長就任。平成12年、(社)日本青年会議所副会頭就任。ほかに、宇都宮商工会議所青年部会長などを務める。平成16年11月28日から宇都宮市長（4期目）。

「大谷石文化の日本遺産認定はうれしいニュース」

（関口会頭）

関口 佐藤市長、明けましておめでとーございます。

佐藤 おめでとーございます。今年もよろしく願います。

関口 昨年12月に内閣府が「いざなぎ景気を超える戦後2番目の長さの景気回復」と発表しましたが、地方経済はまだまだ厳しさが続いています。本日は、未来につながる明るい話題でお話ししていきたいと思えます。

昨年は、何といつても大谷石文化の日本遺産認定がうれしいニュースでした。

佐藤 5月に「地下迷宮の秘密を探る旅大谷石文化が息づくまち宇都宮」として認定を受けました。大変名誉なことだと思っています。これを契機に大谷への観光客誘致をさらに図りたいと考えています。

大谷の観光は、ろまんちっく村の宿泊施設との連携や、2020〜21年頃にオープン予定の大谷スマートインターチェンジ（仮称）などで、いつそうの発展が期待できます。大谷のうち、特に観光資源が集中するエリアについて、開発許可基準を緩和しましたので、宿泊施設やレストランなど魅力アップに直結する施設も立地しやすくなりました。

関口 それは大いに期待できますね。今は入込客数はどのくらいなのでしょう。

佐藤 宇都宮市の入込客数は約1500万人ですが、宿泊者数は約159万人にとどまっています。本来であれば250万人ほど

◎特集

新春対談

栃木県の中核として、さらなる発展を

宇都宮市の新時代を拓く2019年に

宇都宮市長

佐藤栄一 × 関口快流

宇都宮商工会議所会頭

になつても不思議ではありません。

関口 4〜6月のデザインেশョンキャンペーン（DC）期間では、市内観光客は約354万人（前年比0.6%増）、宿泊者数約42万人（同6.3%増）という報告があります。商工会議所としても、この機運をつかんで、ぜひ伸ばしていきたいと考えています。

佐藤 餃子は全国区の人気ですが、それだけでなくさまざまな魅力を創出していききたいと考えています。日本遺産を通じた、大谷石文化の魅力発信に力を注ぎ、大谷の価値をどんどん高めていきたいと考えています。

関口 経済面でプラス効果がでけると、うれしいですね。

観光の課題としては、実際にお客さまがいらした時に、おもてなしができる設備が必要でしょう。大谷は今ある資源を活用しつつ、新しい施設も作って、新しい大谷の魅力を生み出していく必要があると考えています。

大谷石文化を目的に宇都宮市に来ていただき、その帰りに餃子を食べていただく。これがひとつの理想でしょう。

佐藤 大谷の歴史もしっかりと見せながら、新しい大谷を楽しんでいただける工夫を——と考えています。

関口 J R宇都宮駅東口でLRTが着工しました（5月起工式、6月工事スタート）。

西口はまだ先ですが、私は常々「大谷までつながってほしい」と考えています。その一方で、東京都の山手線のように、環状に走らせるやり方もありますね。

佐藤 大谷スマートインターチェンジ（仮称）も順調に準備していますが、完成まではまだかかります。宇都宮市としてはインターチェンジから市街地へのアクセス道路の整備を進めていこうと考えています。

関口 宇都宮インターチェンジも鹿沼インターチェンジも中心市街地からはずいぶん離れていますから、大谷スマートインターチェンジ（仮称）が完成すれば大変便利になると期待しています。

「関西圏から本社を移転した企業もありました」

（佐藤市長）

佐藤 現在、新たな産業団地にも取り組んでいきたいと考えています。

関口 既存の産業団地は、どこも一杯ですからね。

佐藤 現在でも問い合わせが多いですが、ご紹介できる産業用地がもう無いのです。それほど人気が高いのです。

関口 宇都宮市は、いま注目されているようですね。

佐藤 東京に近く交通の便も良いですし、従業員の方たちの生活環境も申し分ありませんので、工場や事業所の進出地として注目されています。本社移転も目立ちます。昨年1社、関西圏から本社を移転していただきました。

関口 ありがたいですね。

佐藤 「人口減少が進む中、関西圏だけでビジネスをしているのは衰退してしまう」という危機感があつたそうです。

関口 宇都宮は昔から交通の要所でしたから、進出企業の期待も大きいと日頃から強く感じています。

佐藤 おかげさまで市の税収も安定し、消費も伸びています。あとは企業が望む人材をいかに紹介できるか、ということです。

宇都宮市では、20〜40代の女性が男性より約1万人少ないという数字が出ています。これらの理由の一つに「女性が働きたいと思うような、オフィス系の企業が少ない」ことが挙げられるのではないのでしょうか。その対策として宇都宮市に進出していただいたオフィス系企業を対象に、雇用などへの補助金制度を設けています。またUターン女性等を対象とした家賃補助なども制度化しています。こうした制度によって企業も進出しやすく、人材も働きやすい都市をめざしています。

関口 中小企業の人材不足は深刻化しつつあります。日本商工会議所の6月の調査でも「中小企業は人手不足が課題、外国人労働者の雇用ニーズが増加」という結果が

せきぐち・かいりゅう

昭和19年生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。昭和45年関関入口入社。平成5年、代表取締役社長に就任。平成24年6月から代表取締役会長。平成26年から宇都宮商工会議所副会頭を務め、平成29年6月に第19代会頭、（一社）栃木県商工会議所連合会会長に就任。全国菓子卸業組合理事長、栃木流通センター理事長などを歴任。



宇都宮駅東口地区整備イメージ図



日本遺産認定セレモニー



出ています。宇都宮商工会議所の管内でも、建設業界を中心に人手不足がはつきりと出ています。

佐藤 それから、高校生が意外に地元企業を知らない、ということが分かりました。その結果、就職のために県外に行ってしまうし、県外の大学や専門学校で学んだ人たちもそのまま外で就職してしまいうことになるのです。今後は彼らに対し、卒業後は宇都宮市で働いてもらえるように情報発信を強化するなどさまざまな施策に力を入れたいと思っています。

関口 それは大切ですね。学生の就職のことまできちんと行っていくことで、人口減少問題や労働問題の解決にもつながりますから。

佐藤 宇都宮市の人口は、約52万人。栃木県全体の4分の1が宇都宮市に居住しています。県庁所在地としての役割をきちんと担って、今後も発展していけるよう、がんばっていききたいと考えています。

関口 今までは種まき、成長の時期。これからが収穫の時期だと思っています。LRT着工しかり、3×3（3人制バスケットボール）のクラブ世界一決定戦の開催も決定しました。いい話題がどんどん出てきています。

佐藤 中心市街地のにぎわいも戻ってきています。いまだに「オリオン通りなど中

開催しました。出張まちゼミも開催し、人気が高まっています。

佐藤 11月には恒例の宮の市（商業祭）、ミヤ・ジャズイン、餃子祭りが開催されましたね。私も会場でございました。私もお店でもございましたが、例年以上の盛り上がりを感じました。

関口 今年は2日間で約15万人が訪れました。市内だけでなく全国から来てくださいましたから、宇都宮市のPRにもなったと思います。

佐藤 今年は10月に消費税率が10%に引き上げられます。軽減税率の導入も決まっています。

関口 いろいろ複雑になって、それが中小企業へのしわ寄せになっている気がします。

佐藤 政府においては、低価格競争が激化して、企業自体が存続できないような事象が起きないよう、中小企業などへの心配りやケアをしていただかないと、景気が不安定になるのではないかと思います。

関口 商工会議所としても、困っている中小企業者をどう支援するかという観点で、重点事業の1つとして取り組んでいます。特に軽減税率は分かりにくい点がありま

すから、そこから来る不安を解消するためにも、軽減税率セミナーなどの開催や広報周知、窓口対応の強化といったさまざまな事業を行っています。

本当は、景気がもう少しきちんと回復

心商店街は人が歩いていない、シャッター通りだ」と言う人がいますが、実際にはほとんど変わっています。飲食店を中心に増えていますから、営業時間が長いので、夜もにぎわいが絶えません。またイベントも、オリオンスクエアだけでも年間に約270日開催されています。

関口 イベントは成功していますね。それが街の活性化に大きな効果を発揮しています。商工会議所でも、これをさらに盛り上げて、来街者を増やしていきたいと思っています。それには、例えばイベントと商店街、飲食店などの連携強化を考えることも必要でしょう。イベント目当てに来てくれた人をおもてなしして、大きな満足を感じていただけるよう、がんばらないといけないと思います。

佐藤 単体イベントだけでなく、いくつものイベントを複合させるやり方も必要ですね。

関口 二荒山神社のお祭りとバンバひろば、オリオンスクエアのイベントを組み合わせるなども良いと思います。

佐藤 歴史と伝統がありますからね。ぜひ良い形で連携していきたいですね。

「消費税引き上げに伴う軽減税率対策にも取り組んでいきます」

（関口会頭）

佐藤 昨年は宇都宮商工会議所もさまざまな事業に取り組まれたことと思います。

関口 先ほどから話題に出ているLRTの開連で、整備事業への地元企業優先注を市にお願いしました（4月）。また、栃木県市

してくれてからの方が、ありがたいのですが。せっかく大企業が回復しているところですから。

佐藤 軽減税率のあり方がかなり複雑な印象があります。不安解消に手を尽くしていきたいと思っています。

「宇都宮駅東口地区整備事業も大きく進展します」

（佐藤市長）

関口 今年度の市政の取り組みについて教えてください。

佐藤 人口減少社会でも安心して暮らし続けられるよう、ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の取り組みをさらに充実します。特に、本市独自の視点により市街化調整区域にも目を向け、今年度から始まった住宅や店舗の立地を促進する地区計画制度の活用に向けた地域の取り組みを積極的に支援するなど、限界集落を作らない、小中学校を統廃合しないよう、地域コミュニティを維持していきます。市街化区域でも、公共交通沿線などに居住誘導区域を定め、その誘導に取り組んでいきます。

もちろん、NCCの要である公共交通の充実も不可欠です。そこに地域のバスケアシステムを合わせて使わせていき、若い人たちが支えやすい社会を作り、持続発展可能なまちづくりに取り組んでいます。そのための施策を着実に進めていきますので、ぜひご理解ご協力をお願いします。

関口 すばらしい計画案はすでにできていますから、あとは実行あるのみですね。商



清原工業団地内のLRT導入イメージ

業引継ぎ支援センターとの連携の一環として、統括責任者補佐を増強し、それとともに中小企業庁の「プッシュ型事業承継支援高度化事業」を受託するなど、事業承継案件掘り起こしもより力を注いできました。

佐藤 公共事業の地元発注は、地域の中小企業の育成にもつながりますし、地域経済活性の観点からも重要だと考えています。できることから前倒しで取り組んでいきたいと思っています。

関口 そうですか、ありがとうございます。

佐藤 商店のファンづくりや地域活性化の点で全国的に広がっている「得する街のゼミナール」（まちゼミ）も順調に開催されているようです。

関口 「まちゼミ」は昨年9月に第6回を

工会議所もできるかぎり協力させていただきます。

佐藤 宇都宮駅東口地区整備事業も、皆さまのご協力をいただき、順調に進んでいます。昨年6月には優先交渉権者を決定し、まもなく事業契約を締結する予定です。東口は新たな都市拠点となるだけでなく、LRTと合わせて低炭素社会の実現の核ともなるでしょう。

ただLRTを通すだけではなく、沿線のまちづくりも進めていって、交流人口の増加や地域経済の活性化など大きな発展につながっていききたいと思います。

関口 東側が発展すれば、その流れが西側にもいきますよ。そのいい流れで西側のまちづくりも進めていただきたいと思います。

佐藤 皆さまのご理解が進み、やと勉強会の開催ができるようになりました。

関口 商工会議所の重点事業としては、先ほど触れた消費税関連のもの他に、人手不足などに対応する「働き方改革セミナー」などの実施や各種対応、事業承継・創業支援などが挙げられます。また4月～6月にはアフターDCがありますから、これを活用して地域が一体となった観光振興やおもてなしの向上、地域活性化に取り組んでいく予定です。

佐藤 今年も市政にご理解いただき、ぜひ二人三脚でまちづくりをしていきたいと思います。

関口 今年は元号も変わります。私たちも新時代を拓く気持ちで、宇都宮市の発展のために力を尽くしていきます。よろしくお願います。